

10月25日(金) “東近江市立五個荘小学校”を訪問しました！

○訪問テーマ 「働き方改革の取組 教員が『自分』と向き合う時間の確保に向けて」

○訪問した委員 土井 真一 委員 岡崎 正彦 委員 野村 早苗 委員

○学校概要

昭和42年に旧五個荘町にあった3校が統合して、現在の五個荘小学校に至ります。全校児童689名の大規模校ですが、ここ10年間で100名程度減少しています。

児童は、「明るく挨拶する」、「静かに人の話を聞く」、「元気に遊ぶ」といったことを大切に、メリハリをつけて学校生活を送っています。



○訪問の様子

はじめに東近江市教育委員会から、東近江市の学校における働き方改革取組方針について説明していただき、続いて、校長先生などから五個荘小学校における働き方改革の取組や現状と課題について説明していただきました。

その後、子どもたちの学習環境やスクール・サポート・スタッフの業務について説明を受けながら、校舎内を見学しました。

見学後は、今後の働き方改革の進め方等について意見交換を行いました。

スクール・サポート・スタッフとは
教員に代わって資料作成や授業準備等を行うことで、教員をサポートするスタッフ。

○東近江市における働き方改革の取組方針より

東近江市では、**教職員の「ワーク・ライフ・バランスの充実」**を合言葉に、教職員一人ひとりが、心身ともに健康で、ゆとりのある生活を営み、生き生きと子どもたちの成長のために仕事に取り組むことこそがよりよい教育活動を創造し、教育水準の向上につながるという趣旨のもと、4つの重点取組を掲げています。

①時間管理の徹底

・19時退勤、20時学校施設を目標にし、教職員の時間に対する意識の向上を図る。

②事務業務の軽減

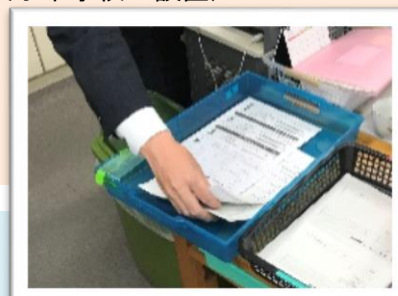
- ・「校務支援システム」の積極的活用。(出席管理や成績等を市で統一して管理する)
- ・教育ネットワーク、事務共同実施等の連携・活用。
- ・時間外留守番電話の導入。(今年度市内3校で試行、来年度から順次小中学校に設置)

③授業準備支援

・OJT組織の充実により、若手教員の育成を図る。

④部活休養日の徹底

- ・休養日の設定。(週2日以上：平日1日、土日いずれか1日)
- ・朝練習の全面中止。



スクール・サポート・スタッフ
への業務依頼用紙

○五個荘小学校の現状と取組より

- ・4月に比べ、9月の時間外勤務は約20時間短縮され、職員の平均は約55時間である。
- ・運営委員会において、現状と課題を把握し、トップダウンだけでなく、ボトムアップを大切にして改革を進めている。
- ・教科主任など一人に負担が偏らないように、校務分掌を見直し、業務の分散を図っている。
- ・資料のデジタル化や共有により業務の時間短縮につながった。また、市全域のサーバーになってから、セキュリティやバックアップが向上した。
- ・突発的な生徒指導事案や不登校傾向の児童も多く、個別対応が必要な場合にスクールカウンセラー等と連携できるときもあるが、担任以外の教員は少なく、十分な体制が取れないことがある。
- ・学級会計の事務が負担になっているが、市内共通で今後学年会計に移行していくので、新システムにより課題を解決しながら活用していきたい。

○意見交換より

滋賀県：「小学校で英語教育が始まる中、教員の負担軽減などを考えると、教科担任制についてはどう考えていますか。」

学 校：「教科担任制になれば、時間割編成等において十分に計画を立てる必要があるが、複数の教員で子どもたちを見ることができるメリットもあると思います。」

東近江市：「小学校のALTは来年度から2校に1人の配置予定ですが、専科教員だけでやることは難しく、小学校の先生に英語の指導力を付けてもらっている状況です。」

滋賀県：「先生方がストレスを感じたり、負担に感じているものは何ですか。」

学 校：「様々な依頼調査への回答など、事務的な部分だと思います。また先生によっては、研修等による出張の回数を多く感じているようです。」

東近江市：「中学校では部活動だと思います。一生懸命取り組まれている先生がおられる一方、負担に感じている先生は多いのではないのでしょうか。部活動の教育効果は高いが、だから仕方がないという時代ではないと思います。また、生徒指導等も様々な課題があり、スクールロイヤーなどのシステムは必要になってくると思います。」

滋賀県：「総合教育センターでは、集合研修がよいのか、学校に出向いてするのか、研修の持ち方を検討しています。部活動も、良いことだからと、他の学校の様々な活動を求められると、各学校や先生方の個性も生かされず、みんなの仕事が増えてきます。市として統一的に方針を出していることは必要なことだと思います。」



○教育委員より

<土井委員>

東近江市教育委員会がしっかりと基本方針を立てられ、五個荘小学校をはじめ、市内の各学校が工夫をしながら働き方改革に取り組み、実績をあげておられるのは大変素晴らしいことだと思います。働き方改革は、先生方の勤務時間の短縮それ自体を目的とするものではなく、子どもたちの成長にとって何が大切かを考えて目標を設定し、その実現に向けて合理的な取組を行う教育改善の一環として位置付けられるべきものです。それだけに、部活動の位置付け、教材研究などの授業準備や教員研修の在り方など、難しい課題にも取り組む必要があります。県としても、東近江市などの先駆的な取組を積極的に支援するとともに、学校の本来の役割を明確にし、そのために先生方が生き生きと取り組んでいただけることが、何よりも子どもたちのためになることを、保護者や地域の皆さんに御理解いただけるよう努めることが大切であると、改めて考える貴重な機会をいただきました。

<岡崎委員>

大規模校における取組を見せていただきました。校長先生のトップダウンによる明確な目標が示され、先生方と職員が協力し、教育現場における事務作業の合理化や内容別会議により全員が参加しなくても済む会議を推進することで、着実な働き方改革が進んでいました。また、時間外管理も先生方の意識改革で着実にこれまでの教育現場から少しずつ変化を起していることが確認できました。しかし、実態としては時間外労働の先生間のアンバランスがまだまだ大きく、更なる改善と職員間の協力や業務配分の見直しなどに取り組まなければならない課題は残っていることも確認させていただきました。県としても貴重な人材が有効に働く取組をしていくことが必要であると感じる訪問でした。

<野村委員>

重厚な門構えの向こうに近代的な校舎があり、校舎の中に隠れ家を造るなど子どもが「わくわく感と安心感」を抱くような素晴らしい学習環境というのが五個荘小学校の印象でした。指導体制に目を向けるとスクール・サポート・スタッフを配置することで担任の先生方の負担が軽減され、学習指導や学級運営に軸足を置けるような環境が整備されていました。また、働き方改革においては東近江市教育委員会を中心に、学校現場での解決策を打ち出し実践されていました。具体的には教職員の残業時間の管理は自校にとどめず市教育委員会でも把握し、数値化することによって原因を追究する取組もされていました。また、退職された先生方が地域に戻られそれぞれの学校で再びお力添えいただける仕組みも一つの手段であると感じました。今後、教育現場で御努力されている先生方の負担が少しでも軽減されるよう改革を進めていければと思います。